

NPO等からの協働事業提案（新しい公共の場づくりのためのモデル事業分）
平成24年度中間報告書

1 事業実施内容

事業名	災害にも強い多文化共生地域づくり事業	
事業実施主体名	特定非営利活動法人伊賀の伝丸	
事業概要	<p>地域のコミュニティ力を高め、災害時に地域住民と外国人住民が共に助け合える関係作りを事業目的とする。伊賀市小田地区住民自治協議会をモデル地区とし、当住民自治協議会や三重県・伊賀市・地元企業と協働し、次の事業を行う。</p> <p>1. 外国人住民が防災訓練に参加 2. 地域住民と外国人住民が定期的な交流 3. 外国人住民が地域活動を知り、それらの参加割合を増やす。</p>	
委託額	平成23年度	2,940,000円
	平成24年度	6,888,000円
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	●協働事業参加組織	
	小田町住民自治協議会／三重県環境生活部多文化共生課／三重県環境生活部男女共同参画NPO課／伊賀市市民生活課多文化共生係／株式会社エクセディ／伊賀日本語の会	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
	2012年4月23日	第7回会議 シンポジウム実施案について
	2012年6月14日	第8回会議 シンポジウムの広報、多文化サークルについて
2012年8月9日	第9回会議 多文化サークル、多文化キットについて	
取組内容	<p>●これまで取り組んできた内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「大震災から学ぶ多文化共生のまちづくり」の開催、DVDの作成 ・多文化サークル「OTAともだちの会」の立ち上げをサポート <p>伊賀の伝丸としては、小田在住の外国人にメンバー参加の声かけ、小田町夏祭りの多言語チラシの作成、夏祭りの屋台出店のアドバイスなど</p> <p>●当初（採択時）に計画していた内容から変更したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田町住民自治協議会からの希望により、日本語よみかき教室から多文化サークル「OTAともだちの会」の立ち上げに変更（24年度当初計画で変更済） ・在住外国人対象「防災と自治会に関するアンケート」の結果発表について当初は10月小田町広報で発表予定だったが、9月の回覧板で結果発表を予定 ・多文化座談会のテーマを防災に絞り、「防災ワークショップ」として開催 <p>●現状の成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムには伊賀市以外からの多数参加者も含め、155名の参加。大震災の被災体験を聞き防災意識を高めたり、在住外国人とのまちづくりのありかたについて考える機会となった。 <p>シンポジウム参加者アンケート（回答者 127名）のうち、大村氏の基調講演につい</p>	

	<p>て、「とても役立つ」に 64 名、「役立つ」に 47 名が回答(合わせて 87%)。パネルディスカッションについて、「とても役立つ」に 42 名、「役立つ」に 55 名が回答(合わせて 77%)。全体の評価として、「とても良かった」に 52 名、「良かった」に 53 名が回答(合わせて 83%)。これらの回答結果からもシンポジウムの一定の成果はあったと考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の自主的な多文化サークルが活動を開始。夏祭りの多言語チラシを自治会役員が配布するなど、住民と協力して外国人への告知活動を行い、約 30 人の外国人が夏祭りに参加 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムの盛り上がりを一過性のものとするのではなく、防災訓練(ワークショップ)などの実践的な取り組みへと繋げていくことが必要 ・成果を他地域に広めるための汎用性の不足 ・多文化サークルの継続的な活動には、サークルメンバー(主に外国人メンバー)の不足、サークル運営の基礎が弱い
<p>今後(平成 24 年度下半期)の取組予定内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●OTAともだちの会の活動支援を継続する OTAともだちの会が、来年度以降も自主的な活動が継続できるよう、チラシ作成や配布、交流会の企画・運営等をサポート。例:運動会(10/8)、自主防災訓練(10/14)、文化祭(11/17)、料理教室(1月を予定) ●他地域の国際交流イベントなどでシンポジウムのDVDを放映し、防災や多文化共生の必要性についての啓発をする。(11/3 三重県多文化共生啓発イベント(伊賀市)、12/2 伊賀市国際交流フェスタ、12/9 国際交流フェスティバル(津市)などを予定) ●「防災ワークショップ」の開催(12月ごろ) 多文化座談会のテーマを防災に絞り、より実践的に発展させたもの。避難所で使われる言葉日本語を やさしい日本語に言い換えて、外国人に伝える工夫をしてもらう。防災グッズの紹介など。 ●「多文化キット」の作成(11月ごろから) 「多文化キット」とは、自治会行事の多言語チラシ、ゴミの出し方や注意点の多言語案内文といった、翻訳物にとどまらず、当事業で実施した交流会の様子、多文化サークルの立ち上げ方法、簡単なブラジル料理のレシピや屋台の準備物まで、地域の日本人と外国人が交流を持ち、外国人に地域活動への理解と参加を呼び掛けるためのノウハウや資料をまとめたものを想定している。このキットの活用と伝丸のアドバイスをを行うなどにより、他地域でも一定の成果を上げることが期待できる。
<p>平成 25 年度以降の見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小田町住民自治協議会へのアドバイスやサポート OTAともだちの会の活動や「自治会説明会」など、小田町住民自治協議会が多文化共生に関する活動が継続するよう、必要に応じて協働していく。 ●防災意識(自助意識)の向上や多文化共生社会の推進を目指す シンポジウムDVDを県内の各国際交流イベントなどで放映していく。 伊賀市内の東部住民自治協議会や西部住民自治協議会に働きかけ、多言語キットの活用を進めていく。その後、県下の地域へも活用を広げる。

2 成果の達成状況等

<p>平成 24 年度に達成しようとする成果</p>	<p>① 震災被災者の体験を聞くことで、日本人住民、外国人住民、地元企業、行政機関などそれぞれの立場で防災訓練や住民間コミュニケーションの重要性を認識する。 ② 小田町住自協又は小田町自治会の行事(夏祭り、自主防災訓練、運動会、文化祭など)に在住外国人が自主的に参加する。 ③ 小田町在住の有志が「多文化サークル」を立ち上げ、平成 25 年度以降も日本人住民と外国人住民が継続的に交流できる土台を作る。</p>			
<p>具体的な指標の達成状況等</p>	<p>項目</p>	<p>当初目標設定</p>	<p>8 月末日の達成状況</p>	<p>平成 25 年 3 月末達成見込み</p>
<p>①シンポジウムの参加者</p>	<p>目標値(100 名)/現状(-)</p>	<p>参加者 155 名</p>	<p>達成率 155%</p>	
<p>②夏祭り・防災訓練・運動会・文化祭に参加する外国人</p>	<p>目標値(のべ 40 人)/現状(-)</p>	<p>夏祭り 約 30 人</p>	<p>のべ 80 人</p>	
<p>③多文化サークルの活動</p>	<p>目標値(7 回)/現状(-)</p>	<p>3 回 (会議2回と夏祭り)</p>	<p>8 回(会議 4 回、イベント 4 回)</p>	
<p>●成果指標の達成状況</p>				
<p>① 宮城県での外国人住民の被災状況や避難所での事例から、顔の見える関係の有無が、お互いの生死を分けるのだという認識を会場内で共有することが出来た。会場の外国人住民からも「自治活動にどのように参加して良いかわからない。もっと気軽に私たちを誘ってほしい。」と言った意見も出て、立場は違うが地域コミュニティ構築の重要性を認識し、少しでも進めていく必要性を強く認識した。 また「三重県情報提供ホームページ」には、シンポジウム取材映像が多言語でアップされており、シンポジウムで話し合われた内容がコンパクトに紹介されている。三重県からも、「災害にも強い多文化共生のまちづくり」を県内外に発信してもらっている。</p> <p>② 夏祭りでは、多文化サークル「OTAともだちの会」の日本人とブラジル人が協力し、ブラジル料理の屋台を出店。多言語チラシでの告知も行い、外国人住民約 30 人が来場した。防災訓練や文化祭でもさらに多くの外国人の参加を目指す。</p> <p>③ 多文化サークル「OTAともだちの会」が発足。日本人 11 名、外国人 5 名で構成。これまでに3 日間の活動を行う。発足したばかりであり、現段階では伝丸のサポート無しに全て自力で行うのは少し難しい。しかし会議にも外国人が参加して意見を述べたり、今後の活動計画を自主的に検討するなど、会として順調なスタートを切ることができた。</p>				
<p>●課題 および その改善方針</p>				
<p>課題 1 日本人と外国人の顔の見える関係づくりが不十分 ⇒防災訓練や文化祭など地域の行事に一人でも多くの外国人の参加を呼び掛ける 伝丸とOTAともだちの会のメンバーで外国人宅を訪問して、イベントの告知や地域活動(行事)の紹介をする ⇒防災ワークショップなど実践的な取り組みを通し、日本人と外国人の交流の機会を持つと共に、防災意識や自助意識の向上も促す</p> <p>課題 2 自治会や自治会参加の意義が外国人住民にあまり理解されていない ⇒OTAともだちの会の活動が軌道にのり、在住日本人と外国人を繋ぐ役割を果せるようにする。 また、外国人住民が地域行事に参加し、地域住民のひとりであることが実感できるようにする。 このような地域での基盤が整ってから、「自治会説明会」といった講座を開催する。講座開催は 25 年度以降の課題とする</p> <p>課題 3 成果を他地域で広げるための汎用性 ⇒多言語キットを完成させ、まず伊賀市市内の他の住民自治協議会での活用を働きかける ⇒シンポジウムのDVDを他地域で放映し、防災や多文化共生の必要性についても啓発する</p>				
<p>現状の自己評価</p>	<p>評価ランク</p> <p><input type="checkbox"/>S:特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>A:優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B:一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C:限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D:成果が得られなかった (該当する評価にチェックを付けてください)</p>			